

ふるさとの歩み

第6回

～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」の刊行に合わせ、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。同書は、市立図書館と市役所1階行政資料室で頒布(価格=2,500円)しています。
※「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」についてくわしくは市立図書館(☎27-4646)へ。

豊住村

村を挙げた水害対策



豊住村役場。建物は明治末期築と考えられており、昭和29(1954)年の市制施行後には、豊住支所として使われていました(「成田の歴史アルバム」から)



昭和19(1944)年に行われた、安西地先の十日川底水路工事(「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」から)

村の設立と産業

豊住村は明治22(1889)年、竜台村・興津村・北羽鳥村・安西新田・田川村・佐野村・長沼村・南羽鳥村の8カ村が合併することで誕生。村役場は北羽鳥に置かれました。農業は米作が中心。副業として茶の生産が広く行われていましたが、次第に養蚕が盛んになり、明治後期ごろから村内には桑畑が増えていきました。

水害対策に地元が団結

村内では、台風などに伴う根木名川の氾濫によって耕地の冠水や家屋への浸水などの水害が多発しており、その克服が課題となっていました。根木名川の改修は、昭和7(1932)年に着手され、昭和16(1941)年までに第一期・第二期工事が実施されています。しかし、これらの工事は大規模な出水に耐え得るものではなかったため、昭和16年から県営根木川

沿岸農業水利改良事業(第三期工事)が実施され、堤防のかさ上げ、排水機の増設などが行われました。事業の中では排水路の掘削も行われ、その作業が10日で終了したことから、同水路は「十日川」と命名されています。こうした工事には地元民のほか、満蒙開拓青少年義勇軍の訓練施設である茨城県内原訓練所の訓練生も参加。これに対し、村内の旅館組合・料理屋組合が寝具や食器を貸し出したり、理髪業組合が散髪の奉仕を行ったりするなど、村を挙げての作業が進められました。十日川の延長築堤など、河川の改修工事は戦後も進められ、昭和61(1986)年には、現在も利根川との合流地点に建つ十日川排水機場が新築竣工されています。

編集後記

今回で17回目を数える「成田まつり」。表紙狙いで「津軽三味線大演奏会」を撮影してきましたが、バックに置かれた菊がつぼみのままだったためか、バツとしない写真に。花々が彩りを添えてくれれば、結果は違ったのかもしれませんが…。今号の表紙は、昨年入った職員が撮った写真。今後の活躍が期待されます。「広報なりた」の記事って、それぞれ担当が決まっているんです。誰が担当してもクオリティが変わらないように作っていますが、それでも…。皆さんはお分かりになりますか？



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成23年11月15日号 No.1207

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>